



音楽カフェの風景 その14 内科 村上 敬子

ときめきコンサートに沖縄の音楽が心地よく流れました。我喜屋さんと伊差川さん、そして福山医療センター三線部の皆さんによるライブ演奏です。我喜屋さんの誠実なお人柄とあふれ出る沖縄愛が会場をあたたく包みます。沖縄の方言で、ぬちぐすい(命薬)=おいしい食べ物、みみぐすい(耳薬)=よい音楽、ちむぐすい(肝薬)=心にしみる

言葉、なのですって。かーみぬくーやかとうしぬくー(亀の甲より年の功)=苦難を体験したお年寄りの知恵は貴い、オジー・オーバーを大切に。だから今日、会場の皆さんから学んだことを大切にしたいと、締めくくられました。音楽にはおのずと演奏者の人となりが見れます。心にしみる時間を頂きました。



第16回ときめきコンサート

三線と沖縄の音楽

放射線技師 片岡 伸子

去る1月30日、福山市内の沖縄料理屋さん「58酒場」のマスター我喜屋さんと店長伊差川さんをお招きして、第16回ときめきコンサート「三線と沖縄の音楽」を開催しました。わたしたち、不肖FMC三線部もささやかながらお手伝いさせていただきました。「こんな真冬に沖縄音楽でいいの？ 沖縄音楽っていったら、ふつう夏だろ？」っていう意外性の企画、だいじょうぶかな～という疑惑はありましたが、我喜屋さんのあつ～い「沖縄愛」と聞きに来てくださった皆さんの温かい拍手で、会場は「常夏の島、沖縄」にへんし～ん！

で、結論。「沖縄音楽は真冬にライブで盛り上がると、身も心もあつたまる！」

まず、沖縄民謡といえば「安里屋ユンタ」。そしておそらく誰もが知ってる「ハイサイおじさん」「涙そうそう」。FMC三線部もいっしょに演奏させていただきました。「いっしょにやろうといってくれた我喜屋さん、聞いてくれたみんな、ほんとうにありがとう！ イェーイ！」(と、ライブ風に)。

そのあとは、我喜屋ワールド展開。沖縄戦という悲しみと平和への祈り、沖縄の自然や文化伝統を慈しむ心、遠くはるかに故郷を慕う思い。そんな、誰もがそれぞれの人生の中で、それぞれに抱いてきた共通する“思い”を、我喜屋さんはさりげない解説をまじえながら、やわらかくも力強い三線の音色にのせて歌い上げていきます。こうして会場の気持ちが一つになったなか、沖縄といえば欠かすことのできない「カチャーシー」が始まります。「カチャーシー」は「かき混ぜる」という意味だそうです。三線の速弾きのリズムに合わせて両手で空気をかき回しているうちに、ほんとうに「まさったわ～」としか言いようのない一体感につつまれてしまいます。

さて最後の曲、我喜屋さんライブの締めくくりはいつも「ていんさぐぬ花」だそうです。人として大切な数々のことを親から子へと歌にして教え継いできた「教訓歌」のひとつです。

～ていんさぐぬ花や 爪先(ちみさち)に染(す)みてい
親(うや)ぬゆしぐとや 肝(ちむ)に染(す)みり～

(ホウセンカの花で爪先を染めるように、親の教えは心に染めておきなさい)
で、提案。わたしたちも親の教えを肝(ちむ)に染めるように、沖縄愛を肝(ちむ)に染めてみませんか？

演者：我喜屋 信雄(歌、三線) 伊差川 千夏(太鼓、はやし、エイサー) FMC三線部(三線)



みんなでカチャーシーを踊りました

第17回 ときめきコンサート

待ち遠しい春 オカリナとリコーダーを聴こう

program
オカリナ
故郷の風景/宗次郎
野に咲く花のよみ/小林亜星
リコーダー
千と千尋のカン
雲の鼓手/エルガー
かつらワルツ/ヨハンソン
入場無料 各気楽にどうぞ

2019.2.22.(金) 15:00~
福山医療センター4F
熊が峰ホール(大研修室)

第17回ときめきコンサートへのご来場をお待ちしています。